令和５年度　第１回北海道Society5.0推進会議　開催概要

１　日　　時

令和５年７月２５日（木）15：15 ～ 17：00

２　実施場所

ホテルポールスター札幌　４階　ライラック

３　議　　事

(1)　本日の会議について

(2)　事例紹介

(ア)「水産GXの展望」（和田委員）

(イ)「北海道発　社員の英知を結集した介護DXの実践」（中元委員）

(3)　データ利活用WG設置について

(4)　令和５年度の道の取組について

(5)　デジタル関連産業集積の推進方向について

(6)　意見交換

(7)　その他（今後の予定）

【委員からの主な意見】

＜デジタル人材について＞

○道の取り組みの予算について、これまでデジタル人材確保WGで議論された予算が少ない。唯一の新規予算として400万円の道庁職員のDX教育があったものの、産業全体に対する予算が無い。

○経産局が事務局の北海道デジタル人材育成推進協議会の方針と昨年度まで実施していたデジタル人材確保WGの方針が合致しない可能性に懸念を持っており、注意が必要。

〈データ利活用について〉

○データ利活用WGでは行政がつくるオープンデータの重要性やデータ利活用のための人材育成、データの作成方法や活用方法、そしてデータ利活用のメリットなどについて議論した。ただ、中々メリットについて具体的に示せなかったことは反省。

しかし、最近はチャットGPTなどのAI技術の登場により、データ分析が容易になり、データをAIに命令して実際に分析してもらうことが現実的になってきた。

オープンデータを活用することで、行政の少ないリソースを効率的に活用し、意思決定を進めることが可能になる。

これらの技術革新を踏まえて、データとAIを活用してDXを推進することが重要。

＜北海道型ワーケーション推進事業について＞

○「北海道型ワーケーション推進事業」について、概要が企業誘致の促進として記載されているが、単純なワーケーション企業の誘致だけでなく、地元の中小企業やスタートアップ企業とのマッチングを行っていただきたい。具体的には、CDO（Chief Data Officer）などの人材がワ

ーケーションで北海道に来て、地元の IT 企業とのマッチングの機会を持ってもらえることを望んでいる。

〈北海道 Society５．０推進に向けて〉

○ＡＩの進展により、society5.0 のベースとなる考え方が変わる可能性がある。計画を柔軟にアップデートし、議論を重ねて良い方向に持っていきたい。

○水産業は他産業に比べてＤＸが遅れているが、北海道においてはＩＣＴ事業を長年推進してきた経緯もあり、society5.0 を実現したい。

○チャットＧＰＴの登場などテクノロジーの変化を活用してデジタル産業を定着させることが重要。デジタル化が進まない中小企業の底上げも含めた議論を進めたい。

○酪農業界においてＤＸの投資が進まない状況。動物福祉や SDGs に関連するＡＩ・ＩＴの活用で付加価値をつける取り組みが再生産価格の向上に寄与すると考えている。

○道内の中小企業のデジタル化推進を重視し、デジタル化の進まない企業の底上げも含めたアプローチを進めたい。

○各行政区を越えた協力を進め、北海道から DX 推進の結果を出せるような取組を進めていきたい。

○スマート農業におけるＤＸの進展について、農家の研究会を通じてデータを活用した土づくりやマーケティングに取り組む農家の動きをサポートしている。

○自治体が DX を進める中で、職員のデジタル人材と心の育成が重要な課題となっており、DX の取り組みを後押しするために取り組んでいる。

○基礎自治体の DX 推進について、東京都のように情報の共同利用や共同調達、クラウド活動を通じて基礎自治体を支えることが重要であり、道内の自治体も DX 推進に対応していく必要がある。

○society5.0 移行の過渡期において、人材の入れ替わりと技術要素が重要。長期的なビジョンと具体的な取り組みを組み合わせて進める必要がある。